教育目標:元気な学校　明るい学校　たのしい学校
鳥川の合言葉:ありがとう　やさしさいっぱい　心も笑顔

鳥川小だより

福島市立鳥川小学校
学校だより第２０号
令和６年２月６日
校　長　穐山俊之

６年生から５年生へ 鼓笛の引継ぎ

↑写真:鼓笛練習に取り組む５年生とアドバイスする６年生(日記に登場する２人ではありません。)

鼓笛の引継ぎが始まっています。

６年生から５年生へ、楽器やフラックなど、たんに「物」を引き継ぐだけではなく、先輩から代々引き継いできた鼓笛への気持ちや態度など、「心」の面も引き継いでいきます。

鼓笛の引継ぎに関して、６年２組担任の先生が、ある６年生（A．Kさん）の日記を読ませてくれました。とても素敵なことが書かれているので、本人の了解を得てご紹介します。

～～

◆１月１６日（火）　　鼓笛の伝承

ぼくは、「鍵盤」だったので、５年１組に行きました。１組同士、２組同士でペアを組みました。でも、ぼくのペアの人は、初めから何もできませんでした。「ソミレレド」のところまで、指使いを教えたけど、ちゃんとやってくれないので、とても悲しかったです。ぼくが５年生の時は、全然教えてもらえず、「ムカッ」としていたから、ぼくはちゃんと教えてあげようと思ったのに…。がっかりしました。

◆１月２０日（土）　　鼓笛の練習

木曜日、ぼくはいやいやながらも、５年１組の教室に行きました。「どうせ真面目にやってくれないだろう。」と勝手に決めつけながら練習が始まりました。しかし、なんと急に“縦持ち”でやり始めたのです。「いや、さすがに無理だろう。」と思ってながめていたら、全部、弾けたんです。ぼくは、心の中でとても喜びました。「やればできる。やはりちゃんとやってくれれば、できるのだ。」と。「この子は大丈夫だ。」と、とても安心しました。

～～

自分が５年生だった頃を思い出し、後輩にしっかり教えてあげようと、張り切って臨んだにもかかわらず、自分の担当するペアの後輩は、真面目に取り組んでくれずにがっかりとした練習初日。

でもその２日後。A．Kさんの気持ちが伝わったのか、練習ペアの後輩は、見事に全部、演奏することができるようになっていました。しかも“縦持ち”で！ きっと先輩の期待に応えようと、２日間、しっかり練習したのでしょうね。

自分が受け継いだもの、培ってきたものを後輩に伝えるべく、責任を果たそうとするA．Kさん。

そして、その先輩の熱意に応えようと、気持ちを入れ替え、練習に取り組んだ後輩君。

きっとこの２人以外にも、こういった光景があるのかもしれません。また、これまでも、そしてこれからも、こういった光景はあるのだと思います。

裏面に続きます。☞

鼓笛隊の引継ぎが、子どもたちにとって、よい成長の機会となっています。

きっと来年の今頃、今の５年生が、Ａ．Ｋさんのように「ちゃんと教えたい!」「やればできるよ。」という気持ちで、次の後輩たちに向き合ってくれることでしょう。

仲間とともに、本気になること
長なわ跳びを通して・・・

「校長先生。長なわ跳びの新記録を目指して、子どもたちが頑張っているので、次の時間、体育館に見に来てください。」という４年２組担任の先生のお誘いを受け、１月２５日(木)の４校時、体育館へ。

４年２組のこれまでの最高記録は、２０７回。(これはこれで、十分立派な記録なんですが・・・。) でも子どもたちは、これでは満足していない様子です。

「今日は、絶対、２０７回を超えたい！」「新記録を出したい！」というわけで早速、チャレンジ１回目。

テンポよく、「タン・タン・タン」と縄が回って、縄に入るタイミングも、跳んで走り抜けるのもうまいものです。でも残念ながら、１回目の記録は１９０回台。

「先生、もう一回！」と、子どもたちから声が上がり、２回目のチャレンジ。

走り出すタイミングで「はい！」と声をかけあったり、背中を「ポン」と軽く叩いて合図を送ったり。みんなでアドバイスしあう子どもたち。

しかし、残念ながら、２回目も新記録達成ならず・・・。

跳び方も回し方も、１回目のチャレンジより、上達している感じはするのですが。 惜しいなぁ。

今日はこれで終わりかと思いきや、まだまだチャレンジは続きます。

「よしっ、頑張ろう！」「つぎ、つぎ！」「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」と気持ちを切り替え、３回目のチャレンジへ。

みんなで声をかけ合って、気持ちを奮い立たせているのが、このクラスの子どもたちのいいところ。友だちのミスを責める子は誰もいません。たいしたもんだ。

これが上達の秘訣ですね。ミスを責めても、誰も上達しません。むしろ気持ちが萎えてマイナスです。空気も悪くなります。ミスをした子が、一番責任を感じている。子どもたちも、それらのことは、十分わかっている様子。

３回目のチャレンジも、テンポよく縄が回って、次々と子どもたちが縄へ入っては、抜けていきます。かなりいい調子で、１９０回を過ぎたあたりから、子どもたちの気持ちも昂りだし、カウントする声が、だんだんと大きくなりはじめます。

「９９、１００、１、２、３・・・(１００や２００を超えると、また「1」「2」「3」とカウントします。)・・・６、７、８、９、１０・・・」

ピッピッー（終了の笛の合図）

「やったぁ！」

３回目、とうとう新記録「２１６回」達成です。みんな、にこにこの笑顔。頑張ったかいがありましたね。おめでとう！

長なわとびをひとつのきっかけとして、４年２組の子どもたちが、「仲間と、ひとつのことに本気になって取り組むことのよさ・素晴らしさ」や「挑戦することの楽しさ・大切さ」、「努力をして成し遂げる達成感・喜び」を味わえたことが、何より嬉しいことです。クラスのよい雰囲気づくりにもつながりますね。

実はこの後、子どもたちは４回目のチャレンジをして、２２２回へと記録が更新されました。

まだまだ、伸びしろがありそうです。